

ブルースター ‘ユキホホワイト’ の 効率的な挿し木繁殖法について



写真1 ブルースター ‘ユキホホワイト’



写真2 トンネル密閉挿しの様子（6月挿し）

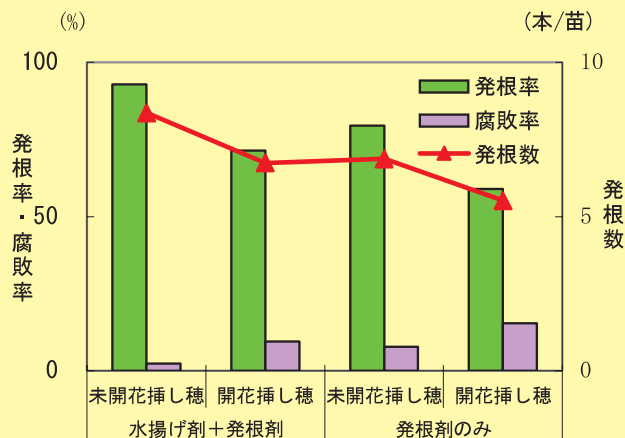


図1 挿し穂の採種時期と処理の違いが発根率に及ぼす影響

a: 挿し木; 2004年5月7日、挿し木26日後に調査。トンネル密閉挿し。
b: 挿し穂の採取時期; 未開花（開花4～5日前の茎葉の挿し穂）、開花（収穫適期である3花房開花時の茎葉の挿し穂）。
水揚げ剤; 市販の挿し芽用水揚げ剤（挿し木の前に、80倍液で30秒浸漬し、30分間風乾。）
発根促進剤; オキシバロン液剤5倍液に瞬間浸漬。

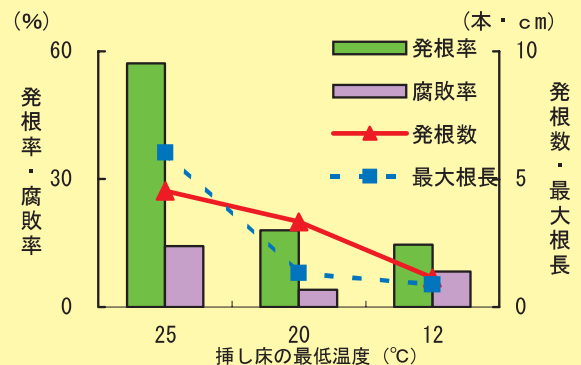


図2 挿し木床の温度条件が発根に及ぼす影響

a: 挿し木; 2005年1月12日、挿し木40日後に調査。
発根剤; オキシバロン液剤5倍液に瞬間浸漬。

ブルースターの新品種 ‘ユキホホワイト’ は(写真1)、高知県芸西村の農家が育成した品種ですが、種子繁殖が困難なことから産地への導入が進んでいません。そこで ‘ユキホホワイト’ の効率的な挿し木繁殖法について検討しました。

挿し穂には、開花4、5日前の茎葉を用い、水揚げ剤80倍液に浸漬、風乾後、さらに、発根促進剤に浸漬し、鹿沼土に挿す方法で

最も発根率が高く、発根数も多くなりました(図1)。また、挿し木床の温度条件としては、最低温度を25℃とすることで、苗の腐敗率はやや高くなるものの、発根率は高く、発根数も多くなりました(図2)。そのため、トンネル密閉挿しとし、比較的高い温度を保つことで効率的な苗生産が可能となります(写真2)。

(花き担当 平石 真紀 TEL088-863-4918)